

# 景気動向指数では CI が中心に

## 2008年4月分から正式採用に

### 1. 景気動向指数の概要

景気動向指数は、重要かつ景気に敏感な複数の経済指標を活用して、景気の現状や将来の動向を把握するための総合的な指標で、2種類あります。

一つは、経済指標によって動きの異なる複数の指標の変化方向を合成することにより、景気が上向きなのか、下向きなのかを把握するディフュージョン・インデックス(DI: Diffusion Index)です。もう一つは、景気の拡大や後退の程度やテンポと言った量感を把握するコンポジット・インデックス(CI: Composite Index)です。DI、CIともに、景気に先行して動く先行指数、ほぼ並行して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3系列があります。(図表1)

### 2. DIとCIの見方

DIは、先行、一致、遅行の3つの系列毎に採用している指標の当月の値が3か月前の値と比較して、増加(上昇)している指標(拡張系列)をプラス1割、同等(保合)(保合系列)をプラス0.5割として算出した割合が何%であるかを示した数値です。(図表1の(注)2参照)DI一致指数が3か月以上連続して50%を超えていれば景気は拡大局面、逆の場合は景気は後退局面と一応判断されます。

CIは、先行、一致、遅行の3つの系列毎に採用している指標の変化率を平均して合成変化率を求め、それを累積して指数化したものです。現在の基準年次は2000年を100としたものです。CIの見方としては、一致指数が上昇している時が景気の拡大局面、低下している時が景気の後退局面であり、このCI

一致指数の山や谷の近くに景気の山と谷が存在すると考えられており、指数の変化の大きさは景気の拡大または後退の程度やテンポを表しています。

### 3. CIの正式採用 CIが中心に

従来、景気動向指数ではDIが中心であり、CIは参考指数とされていました。しかし、DIは、景気が拡大しているのか、後退しているのか景気の変化の方向を表すものの、景気変動がどの程度の大きさやテンポかは分かりませんでした。一方、CIは、DIの欠点を補い、景気変動の大きさやテンポといった量感を把握することができます。そこで、CIが、2008年4月(同年6月公表)分から正式指数として採用され、以降景気動向指数分析の中心になるとみられます。しかし、景気動向を的確に把握するためには、CIとDIを相互に補完しながら利用することが望ましいと考えられています。

### 4. 景気の足踏みが窺われる 最近のCI動向

CI一致指数は、直近の2008年2月が112.4と前月比では0.4%上昇したものの、2007年8月に114.5と過去最高値となった後、伸び悩んでいます。また、CI先行指数は、2006年半ば以降は下降トレンドを辿り直近の2008年2月は97.6と前月比では1.4%低下しています。CI先行指数は、過去の平均でCI一致指数に5か月程度先行していると言われており、CI一致指数は今後下降トレンドを辿っていく懸念があります。(図表2)

図表 1 . 景気動向指数 DI (一致指数) の変化方向表

| 系 列 名               | 2007年 |      |      |      | 2008年 |      |
|---------------------|-------|------|------|------|-------|------|
|                     | 9月    | 10月  | 11月  | 12月  | 1月    | 2月   |
| 1 生産指数(鉱工業)         | +     | +    | -    | +    | -     | -    |
| 2 鉱工業生産財出荷指数        | +     | +    | -    | +    | -     | -    |
| 3 大口電力使用量           | +     | +    | -    | -    | +     | +    |
| 4 稼働率指数(製造業)        | +     | +    | -    | +    | -     | -    |
| 5 所定外労働時間指数(製造業)    | +     | +    | +    | +    | -     | -    |
| 6 投資財出荷指数(除輸送機械)    | -     | -    | -    | +    | -     | -    |
| 7 商業販売額(小売業)(前年同月比) | +     | +    | +    | -    | +     | +    |
| 8 商業販売額(卸売業)(前年同月比) | -     | -    | +    | +    | -     | +    |
| 9 営業利益(全産業)         | -     | -    | -    | -    |       |      |
| 10 中小企業売上高(製造業)     | -     | +    | -    | +    | -     | +    |
| 11 有効求人倍率(除学卒)      | -     | -    | -    | -    | -     | -    |
| 拡 張 系 列 数           | 6     | 7    | 3    | 7    | 2     | 4    |
| 採 用 系 列 数           | 11    | 11   | 11   | 11   | 10    | 9    |
| DI(一致指数)%           | 54.5  | 63.6 | 27.3 | 63.6 | 20.0  | 44.4 |

(注)1 . 景気動向指数 DI には、本表に掲載している一致指数のほかに、先行指数と遅行指数があります。

(注)2 .  $DI = (\text{拡張系列数} \times 1\% + \text{保合系列数} \times 0.5\%) / \text{採用系列数}$

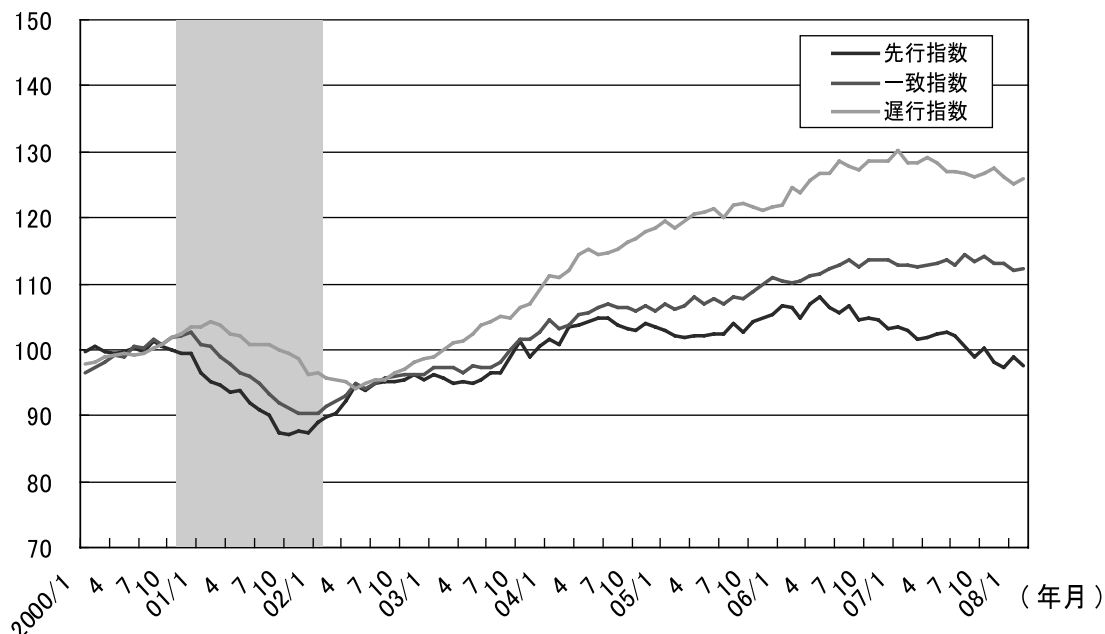
・拡張系列数：3か月前の値が当月の値と比較して、増加(上昇)している指標数です。この場合は、+とし、プラス1%とカウントします。なお、同等(保合)の場合は、0とし、0.5%とカウントします。減少(低下)ならばマイナスとします。指標が未公表の場合は、ブランクとし、DIを算出する際、採用系列数から除外します。

・採用系列数：先行指数、一致指数、遅行指数の各系列毎に採用されている指標の全体の数です。因みに、一致指数は図表1のとおり11、先行指数は12、遅行指数は6、それぞれあります。

(資料)内閣府経済社会総合研究所「景気動向指数」

図表 2 . 景気動向指数 CI の推移

(指数：2000年=100)



(注)シャドー部分は景気後退期を示す。

(資料)内閣府経済社会総合研究所「景気動向指数」